

# 書くということ 2015年5月12日 山元啓史（東京工業大学）

## 1. 基本姿勢

- 1.1. 論文提出の日から逆算して、本当にできる計画を立てる。
- 1.2. 内容は読者が本当に知りたいことを書く。
- 1.3. 書くべきことがらを見積もって、その一日あたりの量を計算する。
- 1.4. 一日あたりの量やったかやってないかわからないほど小さな単位に設定する。
- 1.5. 一日あたりの仕事を、できるだけ短い時間でやる。
- 1.6. 小さな単位は早朝、しかも目覚めてすぐやる。
- 1.7. これを自分のできる限界とし、それ以上はやらない。
- 1.8. 8割のできでよしとする。
- 1.9. 1日はふつうの人間として生きる。
- 1.10. 研究に特別な日は作らない。

## 2. 書くことと調べること

- 2.1. 書くには、考えを整理する必要がある。
- 2.2. 学ぶ時間より書く時間の方を多くする。
- 2.3. 書くために「考える」と考える。
- 2.4. 自分の考えが「正しい」という前提で調べない。
- 2.5. 自分の考えが、調べたことによって否定された経緯そのものを書く。
- 2.6. 否定されたことに納得いかなければ、どちらが正しいか仮説を立てる。
- 2.7. 以上は、必ず、忘れる前に書く。(当然、忘れたのでは書けない)

## 3. 書く習慣を楽しさで作る

- 3.1. いつでもメモできる環境を持つ。
- 3.2. 研究は楽しくやるもの。
- 3.3. 気を抜いていたのでは、本気で楽しくはならない。

## 4. 推敲: 書くことと直すこと

- 4.1. 文は毎度読み直す。
- 4.2. 時間をかけて読み直さない。
- 4.3. 書く時間よりも、直す時間をとることを心がける。

## 5. 短く書くことを心がける

- 5.1. 基本は単純に書く。
- 5.2. 長い文は短く言い換えられるかどうかを考える。
- 5.3. どうしても短くできない時は、無理をしない。
- 5.4. 言いたいことは最小限度にまとめる。

## 6. 論文に使われる文の書き方

- 6.1. 内容がよければ、文の形は淡々としていつも通りのマンネリでよい。
- 6.2. 内容が何であれ、筋道が明確に書ける自分だけのテンプレートを作っておく。
- 6.3. 文の形は関連分野の論文を参考にしてもよい。
- 6.4. 一文入魂である。一文一文でいねいに書く。

- 6.5. ていねいに書く文であるから、速く書くことよりも唱えやすさを重視する。
- 6.6. きれいな文があるのではない。きれいな考え方がきれいな文に見えるだけ。
7. 論文の書き方を読んでから書くか？読まないでまず書いてみるか？
8. チェックリスト
  - 8.1. 自分で意識的にチェックリストを作ってみる。
  - 8.2. 他人の作ったチェックリストよりもよい。
9. 用語と文型
  - 9.1. 自分で用語を作ってはいけない。
  - 9.2. 自分で文型を作ってはいけない。
10. 論文の形式
  - 10.1. 何よりも形式が重要。
  - 10.2. つぎに内容である。
  - 10.3. 形式は教えてもらっても身につかない。
  - 10.4. 論文は、はじめに、方法、結果、考察、おわりに、文献の6つからなる。
    - 10.4.1. 「はじめに」には、問題、研究の背景、目的を書く。
    - 10.4.2. 「方法」では、「...を用い、...をする」のように現在形で書く。
    - 10.4.3. 「結果」では、「...であった」「...となった」のように過去形で書く。
    - 10.4.4. 「考察」では、結果からわかることを解説する。
    - 10.4.5. 「おわりに」では、目的と結果を簡単にもう一度書き、結論を述べる。
    - 10.4.6. 「文献」は引用したもののみを記載する。
11. 先行研究文献は自分の論文のための健康研究文献
  - 11.1. 発表された論文はきれいに書いてある。
12. 論文執筆では小さいことの修正に心がけること。
  - 12.1. 論文の読み直すときは、1ページずつ。
13. 自分のやっていることを伝える
  - 13.1. 「立ち話」を無駄にしてはいけない。
  - 13.2. 仲間に研究の話を聞いてもらう。
  - 13.3. 研究を「成・仕・意」の順で30秒程度で話してみる。
  - 13.4. 30秒の次は、3分ぐらいで話してみる。
  - 13.5. 3分の時は仕組みを少し丁寧に話す。
14. 英語のアブストラクトは必ず自分で書く。
15. その他
  - 15.1. 論文は、練習であっても、あなたのテーマで書かなければ「書く」意味はわからない。
  - 15.2. 忘れるな。チャンスは必ずやってくる。
  - 15.3. 「やらなければならないこと」ばかりに注意を向けてはいけない。